



私の歩んだ道

司書から文庫のおばさんへ

日時／2015年
11月1日 [日]

10:00～12:00(受付9:30～)

場所／長崎県立大学 シーボルト校
中央棟 1階 M103 教室
(長崎県西彼杵郡長与町まなび野 1-1-1)

対象者／地域住民・学生・教職員

事前申込／不要

参加費／無料

※「シーボルト・カフェ」

平成23年度より長崎県立大学シーボルト校で実施している、人の心と体を充実させる視点からの地域活性化を図る取り組みです。地域住民の方へ、いのちに関することを主に、食や健康、社会、経済、倫理等のテーマで講座を開催しています。

今回は、大分県由布市において「鬼が島文庫」、「紙芝居道場」を主宰なさっている千竈 八重子(ちかま やえこ)氏を講師としてお招きし、図書や紙芝居という「文化」を普及させることの意義やそれにかかる情熱の根源について、ご自身の体験をもとにお話しさせていただきます。

千竈 八重子(ちかま やえこ)氏 略歴

「鬼が島文庫」「紙芝居道場」主宰。1934年北九州市生まれ。北九州市立図書館などの児童図書室に司書として40年余り勤務。退職後、大分県湯布院町塚原に子どもの本の文庫「鬼が島文庫」を設立し、地域の子どもたちに開放。図書ボランティア養成講座や子育て支援読書講座などの読書支援活動には全国から依頼が絶えない。「紙芝居道場」も併設。「文化としての紙芝居」の普及活動にも力を注ぎ、国内外で講演講座多数。「日本子どもの本研究会」大分支部長・「紙芝居文化の会」運営委員・「紙芝居文化の会おおいだ」代表・「子どもの文化研究所」所員・「児童図書館研究会」会員・JBBY(日本国際児童図書評議会)会員・「親子読書地域文庫全国連絡会」会員。

